

第7回日韓共同学術会議報告

吉岡知哉（立教大学）

日韓の政治思想学会共同主催による第7回韓日国際学術会議が、「アジアの政治伝統と民族主義：過去、現在、未来」をテーマとして、本年6月20日、21日にソウルの高麗大 schools 100周年記念館で開催された。

会議の準備・運営を担当された韓国政治思想学会、高麗大 schools 亜細亜問題研究所、後援して下さった韓国国際交流財團、日本万国博覧会記念機構に感謝を申し上げたい。

プログラムは以下の通りである。

開会の辞：徐炳勳（韓国政治思想學會長）

第1セッション

司会：米原謙（大阪大学）

- 報告：1. 李三星（翰林大 schools）「日本の近代とfascismの存在様式」
2. 松田宏一郎（立教大学）「創られた「自治の伝統」と植民地主義」

討論：松田宏一郎（立教大学）、金永壽（嶺南大 schools）

第2セッション

司会：李鍾殷（國民大 schools）

- 報告：1. 呉香美（高麗大 schools）「民族国家形成期における立憲主義の意味と限界：東アジアにおける立憲主義の受容の一事例としての大韓民國臨時政府の立憲主義」
2. 菅原光（専修大学）「明治時代における道徳論の浮上と対抗」

討論：吉岡知哉（立教大学）、金錫根（延世大 schools）

第3セッション

司会：吉岡知哉（立教大学）

- 報告：1. 姜正仁（西江大 schools）「丸山眞男の政

治思想に見られる西欧中心主義と日本中心主義：＜日本政治思想史研究＞における“自然と作為の二分法的対立”への批判的検討を中心に」

2. 崔致遠（高麗大 schools）「伝統と近代の衝突から現れた東アジアの民族主義：知識の合理化過程と最高善としての民族価値の問題を中心に」

討論：苅部直（東京大学）、米原謙（大阪大学）

第4セッション

司会：金周晟（韓国教員大 schools）

- 報告：1. 朴東泉（全北大 schools）「民族の実体性に関する哲学的検討」
2. 苅部直（東京大学）「日本中世の政治思想と昭和のナショナリズム——『神皇正統記』と和辻哲郎・丸山眞男」

討論：大久保健晴（明治大学）、李元澤（延世大 schools）

第5セッション

司会：大久保健晴（明治大学）

- 報告：1. 朴珠媛（西江大 schools）「16世紀東洋と西洋の共同体理念に関する比較研究——郷約に見られる“儒教的自治共同体”と再洗礼派運動に見られる“基督教的自治共同体”を中心に」
2. 片岡龍（東北大学）「朱子学からの転換」
3. 井上厚史（島根県立大学）「韓日伝統思想と「天」の概念」

討論：井上厚史（島根県立大学）、金鋭敏（ソウル大 schools）、金明河（慶北大 schools）

第6セッション：総合討論

司会：徐炳勳（崇實大 schools 韓国政治思想學會長）

討論：日本側参加者全員、韓国側発表者全員

閉会の辞：米原謙（日本政治思想学会代表理事）

各報告の論題にも現れているように、会議においては、東アジアの伝統とりわけ儒教的伝統における近代的諸原理の受容の問題、日本の近代主義と植民地主義の関係が主たる論点であった。丸山真男という名が繰り返し口にされたことは言うまでもない。必然的に問題は、ナショナリズムという概念と実体をめぐる議論へと展開し、活発な議論がおこなわれた。nationalismは日本では「民族主義」「国民主義」「国家主義」などと訳し分けられ、最近はまだ「ナショナリズム」と表記されることが多くなったが、韓国においてはnationは「民族」、nationalismは「民族主義」とほぼ一義的に訳される。nation、nationalismという語の持つ歴史的な多義性（およびイデオロギー性）は、さまざまな政治的語彙のなかでも特に深く歴史的経験と現実とに根ざしていると言えよう。韓国においてはnationalismは「民族主義」と訳す以外に訳し方がなかったのだ、という発言はこの点を鋭く突くものであった。

国際シンポジウムは学問の普遍性と歴史性、地域性をあらためて認識する場として、とりわけ思想史研究にとって重要な機会であると思われる。来年度は7月4日、5日に「伝統と革命——政治思想の挑戦」をテーマとして立教大学で開催される。多くの会員の参加を心からお願いしたい。